

普天間行場周辺測定結果

1 概要

普天間飛行場周辺における各測定局の配置状況を図 F 1 に、また測定結果の概要を表 F 1 に示す。

各測定局における環境基準の類型指定状況は、9 測定局中、類型 A が 6 測定局、類型 B が 3 測定局となっている。

安波茶局を除く 8 測定局がオンラインで測定本部へ接続されている。

2 測定結果

(1) WECPNLについて

各測定局の測定期間内WECPNLを表 F 1 及び図 F 2 に示す。

WECPNLについては、上大謝名局を除いた 8 測定局において前年度より減少した。また、真志喜局において環境基準が達成されたことにより、WECPNLが環境基準値を超過している測定局の割合は、33.3%(9 測定局中 3 測定局)で前年度44.4%(9 測定局中 4 測定局)より減少した。

しかしながら、上大謝名局においては、前年度より増加して82.3Wとなっており、環境基準値を大幅に超過している。

(2) 日平均騒音発生回数について

各測定地点の日平均騒音発生回数を表 F 1 及び図 F 3 に示す。

日平均騒音発生回数は、9 測定局中 8 測定局で前年度より増加しており、特に滑走路の近くにある新城局 (+8.5) と上大謝名局 (+5.5) で大きく増加した。

(3) 月別WECPNL及び日平均騒音発生回数について

月別WECPNLと日平均騒音発生回数を測定局別に図 F 4 ~ 4 -2に示す。

野嵩局と上大謝名局においては、年間を通してほとんど毎月環境基準値を超過している。

月別日平均騒音発生回数は、上大謝名局と新城局で多くなっており、発生回数が最も多い月は、平成15年12月の上大謝名における111.1回/日であった。

(4) 月別日平均ピークレベルと最大ピークレベルについて

月別日平均ピークレベル(dB)と最大ピークレベル(dB)の状況を図 F 5 ~ 5 -2に示す。

月別日平均ピークレベルは、滑走路延長直下に位置している上大謝名局におい

て、ほぼ毎月80dBを超えている。

最大ピークレベルは、愛知局、我如古局及び大山局を除いたその他の局において100dB以上を記録しており、全測定局における年間最大ピークレベルは、平成15年7月における上大謝名局の120.4dBである。

また、上大謝名局では、ほぼ毎月100dB以上を記録している。

(5) 曜日別騒音発生状況について

曜日別日平均騒音発生回数を表F 2及び図F 6～6-2に示す。

全ての測定局において、火曜日、水曜日、木曜日の騒音発生回数が多く、特に上大謝名局と新城局においては、その間の回数は100回/日を超えている。また、土曜日及び日曜日の発生回数は少ない。

(6) 時間帯別騒音発生状況

平成15年度における0時から7時(N1)、7時から19時(N2)、19時から22時(N3)、22時から24時(N4)の各時間帯における騒音発生回数(回/月)及び航空機騒音規制措置(日米合同委員会合意事項:H8.3.28)で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数(回/月)を表F 3に示す。

時間帯別騒音発生状況は、7時から19時の間で全体の約80%を占めるが、0時から7時、22時から24時の間にも騒音の発生が観測されている。

航空機騒音規制措置で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数は、前年度と比較して、ほとんどの測定局で横ばい若しくは減少しているが、滑走路近くの新城局においては、前年度51.8回/月に対し、78.0回/月と大幅に増加した。

(7) 各測定局における環境基準超過日数の割合について

測定日数に対し環境基準値を超過している日数を表F 4及び図F 7に示す。

環境基準値超過率の高い測定局は、上大謝名局(74.0%)、野嵩局(47.7%)、新城局(39.1%)の順であり、最も高い上大謝名局においては年間を通して253日が環境基準値を超過している。

(8) WECPNLと日平均騒音発生回数の年度推移について

各測定局のWECPNL及び平均騒音発生回数(回/日)の平成9年度からの年度推移を図F 8～8-2に示す。

WECPNLは、平成9年度から各測定局ともほぼ横ばいで推移している。

騒音発生回数は、上大謝名局においては平成11年度から増加傾向にある。新城局においては、平成9年度から減少傾向を示していたが、平成14年度以降、急激

に増加している。

(9) 航空機騒音規制措置合意前後の航空機騒音発生状況について

平成7年度から継続して測定している野嵩局、真栄原局(平成8年度まで設置、平成9年度からは近隣の上大謝名局で比較)、仲間局(平成10年度まで設置)及び新城局について、WECPNLと22時から翌朝7時までの騒音発生回数(回/月)の年度推移を表F5及び図F9～9-2に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移しており、大幅な低下は見られてない。

22時から翌朝7時の間までの騒音発生回数は、野嵩局においては平成8年度に大幅に減少し、その後は緩やかな減少傾向を示している。真栄原局においても平成8年度には大幅に減少したが、近隣の上大謝名局においては平成10年度に減少した後、平成11年度から増加傾向にある。また、新城局においては、平成14年度以降、急激に増加している。

3 まとめ

(1) WECPNLが環境基準値を超過している測定局の割合は、33.3%(9測定局中3測定局)で前年度44.4%(9測定局中4測定局)より減少した。

(2) WECPNLは、上大謝名局で82.3Wと前年度より増加しており、依然として大幅に環境基準値を超過している。

(3) 日平均騒音発生回数は、9測定局中8測定局で前年度より増加しており、特に新城局においては前年度より大幅に増加している。また、曜日別では、平日に騒音の発生が多く、特に上大謝名局と新城局において顕著に現れ、火曜日、水曜日、木曜日に集中していた。

(4) 平成7年度から継続して測定している測定局について、WECPNLと夜間-早朝(22時～翌朝7時)の騒音発生回数の年度推移をみると、WECPNLは、ほぼ横ばいで推移しており、大幅な低下は見られてない。

また、騒音発生回数は、野嵩局と真栄原局においては平成8年度に大幅に減少し、その後、野嵩局においては、緩やかな減少傾向を示している。しかし、上大謝名局においては平成11年度から増加傾向にあり、新城局においては平成14年度以降、急激に増加している。

(5) 普天間飛行場周辺における平成15年度航空機騒音測定結果は、WECPNLや騒音発生回数などの値が依然として高く、特に上大謝名局及び新城局で深夜-早朝の騒音発生回数が多くなっていることから、普天間飛行場から発生する航空機騒音は周辺地域住民の生活環境に対し大きな影響を与えている。